

平成28年5月19日
神戸シンポジウム

「地方創生、事業継承、事業 転換における地域金融の 関わり方」に対するコメント

関西外国語大学
堀 江 康 熙

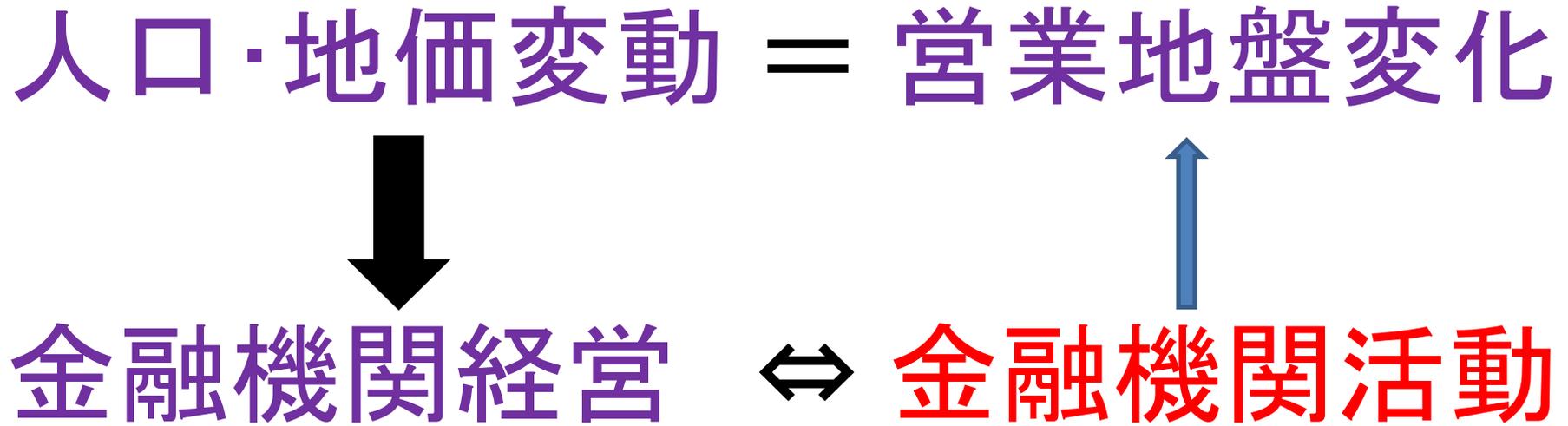
環境変化と地域金融機関

- 経済活動環境が大きく変化するなかでは、**地域金融機関の活動様式も変革を余儀なくされる**
- **人口減少社会（経済活動は縮小気味）**を前提としつつ、行動していく必要
- **関係重視型の取引手法には弱点も**
- **資金余剰下では、金融→経済活動の働きかけは限定されてくるが……**

地域経済の特性を考慮すると……

- 地域経済の中心は中堅以下の**企業**
→ 貸出は小額でも**1件毎に審査・モニタリングが必要**
……**大手行**にはそうした行動は期待し難い
- 地域金融機関は、**地域に於ける金融取引のコアとしての存在意義**
- 地域の金融ニーズは引続き存在
- 地方創生での役割は大(情報・企画)

経済活動と金融機関活動



- 営業地盤は店舗のある市区町村の経済活動指標に示される
……金融機関の経営を左右

営業地盤指標の捉え方

- 店舗を構える市区町村の指標（事業所数等）を、当該金融機関の**市区町村別店舗数をウェイトとして加重合計**

$$Q_{jk} = \sum_{i=1}^n w_{ij} * X_{ik} \dots \dots \dots (1)$$

Q_{jk} : j 金融機関の営業地盤を表す指標 (k は人口ないし地価を表す)

w_{ij} : j 金融機関が i 市区町村内に設置している店舗数が j 金融機関の全店舗数に占める割合

n : j 金融機関が店舗を設置している市区町村の数

X_{ik} : i 市区町村に関する経済指標 (k は人口ないし地価を表す)

- この値をその指標で表した当該金融機関の**営業地盤**と見做す
……代表的指標は**地価・人口**

営業地盤によるグループ化

- 地方銀行：大都市型・中核都市型・小都市型

京都銀行は**中核都市型**

……大垣共立・三重・滋賀・南都

- 信用金庫：大都市型・中都市型・小都市型

但陽信用金庫は**中都市型**

……関西では15信金（兵庫8、
滋賀・奈良各3、京都1）

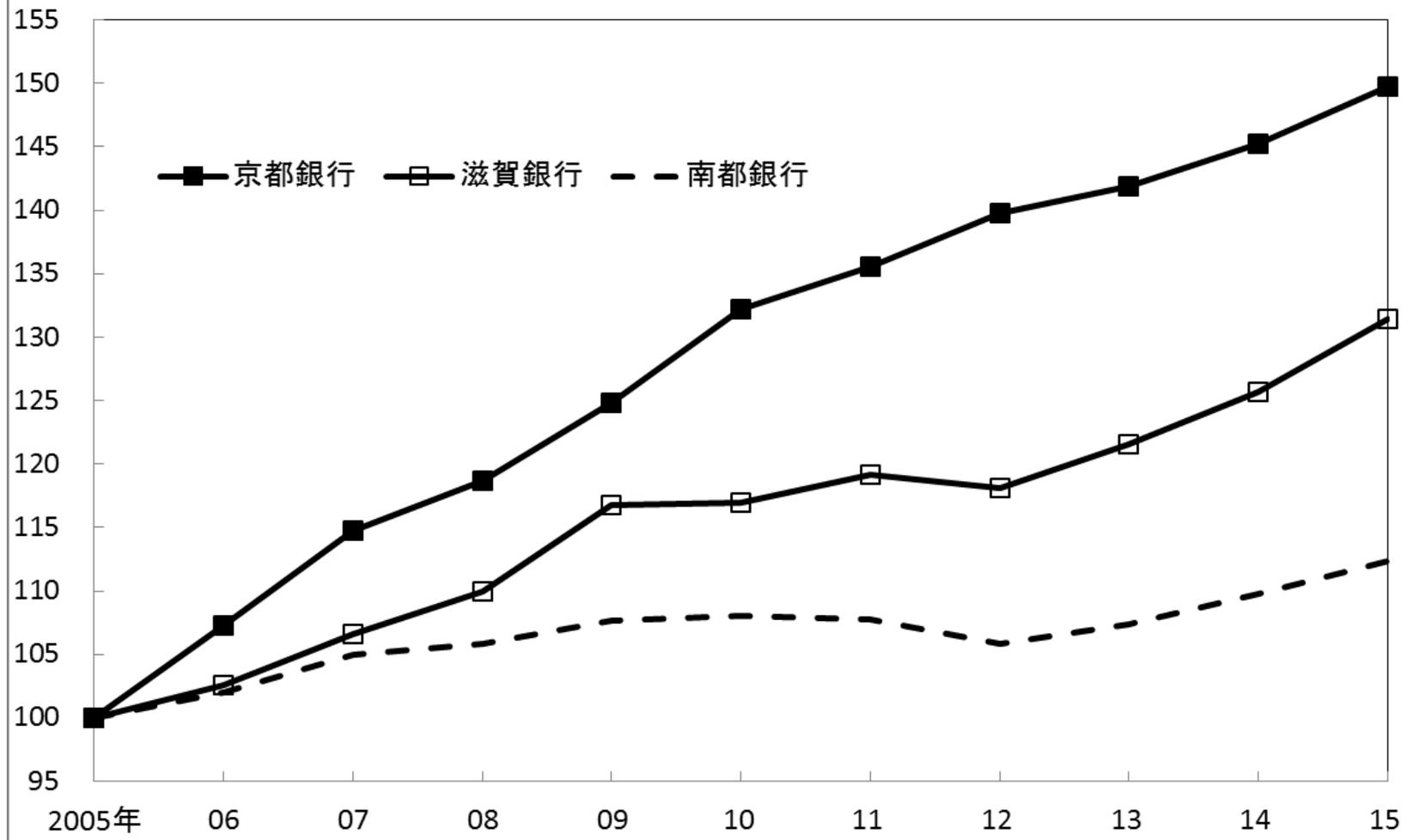
地方創生への取り組みと成果

- 京都銀行・但陽信用金庫ともに、**地域経済の再生・地方創生へと努力**
- ポイントは、そうした努力が、**取引先の数・規模の拡大や貸出等に跳ね返っているか**
- **自身の収益力は改善したか**
- **狭義のリレバンは既存先との取引深耕中心**
- **関係重視型取引の弱点（新規先への対応）を如何に克服するか**

京都銀行の地方創生へ向けた行動

- 企業のライフステージに応じた取り組み等を実施
 - ①創業・新事業支援
 - ②成長支援（販路開拓・海外展開）
 - ③地域の成長産業に対する支援
 - ④経営改善・事業再生支援、事業承継サポート
 - ⑤観光産業活性化支援（……京都の目玉でもある）
- その成果を貸出中心にみると……

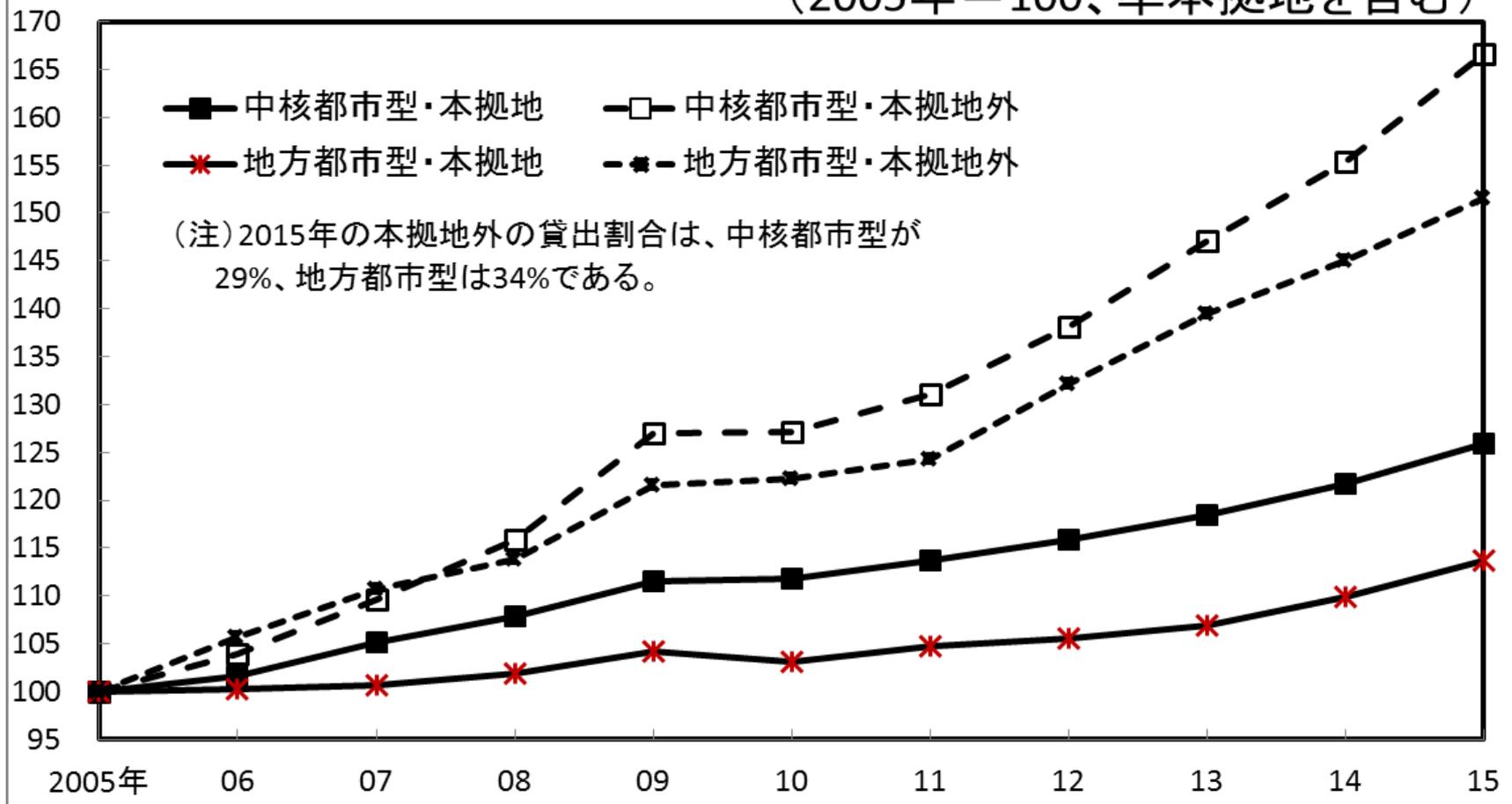
中核都市型関西系3行の貸出推移(2005年=100)



- 京都銀行の貸出総額は大きく増加、同様に中核都市型の滋賀・南都をかなり上回る伸び
- しかし.....

地方銀行のタイプ別・本拠地別貸出動向

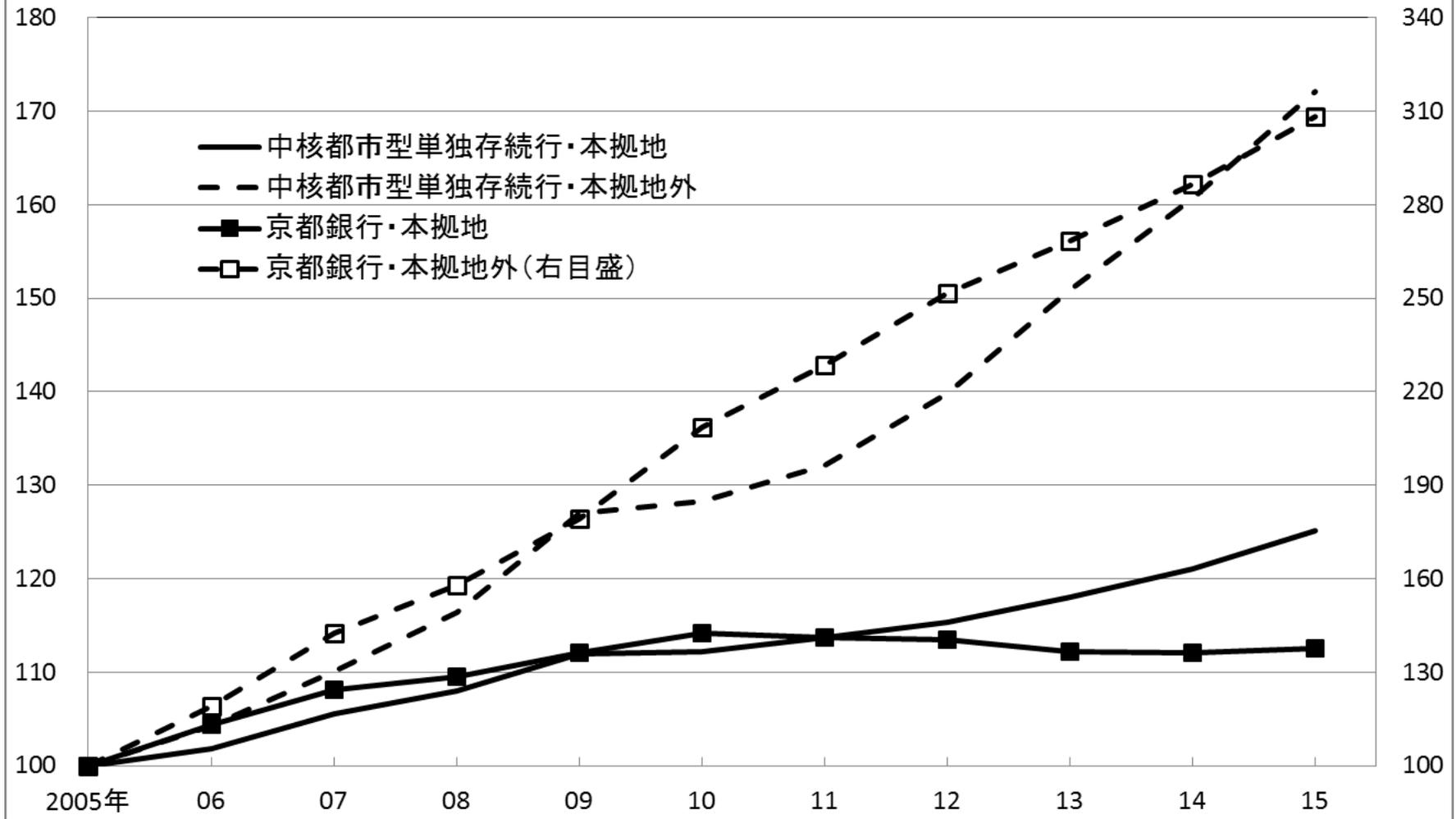
(2005年=100、準本拠地を含む)



• 都道府県単位でみた本拠地での伸びは高くなく、
その他地域では高い

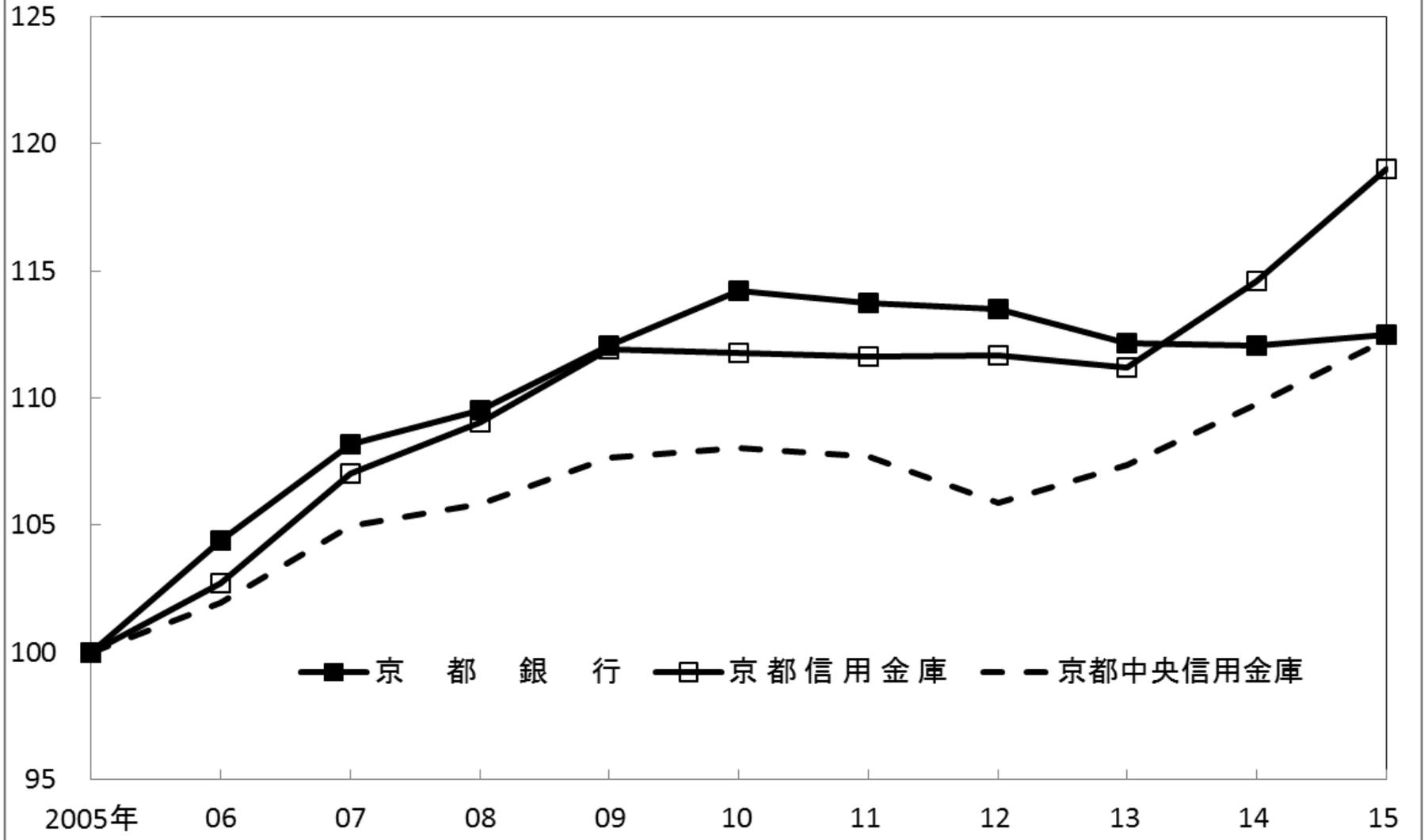
……全体として競争激化・貸出金利低下

中核都市型地方銀行の地域別貸出推移(2005年=100)



- 貸出伸長の地は京都府ではなく、外部の大阪等
- 本拠地ではむしろ伸び悩み(10年間で1割強)
- 他の中核都市型単独存続行と比べても目につく

主要3金融機関の京都府内貸出動向(2005年=100)



- 京都府内では伸び悩みの傾向
- 京都信・京都中央信は近年伸びが目立つが

経営指標の水準および変化

(2004年度・2004 → 2014年度、単位 %・%ポイント)

		京 都 銀 行	関西・東海所在 中核都市型 4 行	中核都市型計 (単独存続 17 行)
2014 年度の 水準	コア業務純益率	0.285 (-0.273)	0.251 (-0.298)	0.415 (-0.305)
	コア業務粗利益率	1.082 (-0.484)	1.267 (-0.535)	1.433 (-0.544)
	経 費 率	0.716 (-0.177)	0.911 (-0.255)	0.894 (-0.243)
	貸 出 金 利	1.182 (-0.650)	1.225 (-0.599)	1.475 (-0.620)
04 → 14 年度	貸出額伸び率	49.7	43.9	35.8
	中 小 企 業	6.1 [-14.8]	8.4 [-11.9]	7.4 [-8.8]
	個 人	57.5 [1.7]	91.2 [6.5]	61.1 [5.3]
	地 方 政 府	144.8 [3.2]	135.3 [2.8]	104.7 [2.0]
	大 企 業	177.1 [9.9]	75.1 [2.6]	51.2 [1.6]

(注) 1. 関西・東海所在中核都市型は、大垣共立・三重・滋賀・南都の 4 行(十六銀行は合併行のため除外した)、中核都市型計は 2000 年代入り後に合併・経営統合のない銀行で、何れも京都銀行を除いている。

2. 貸出内訳は日経 NEEDS 等による。()内は 2004 → 2014 年度の変化幅、[]内は同期間中の貸出構成比の変化幅(何れも%ポイント)である。

- 貸出金利の低下幅は大きく水準自体も低い
- 大企業・地公体向け貸出増加の影響か

京都銀行の営業地盤

(単位 千円、所、人、%)

	京 都 銀 行	関西・東海所在 中核都市型 4 行	中核都市型計 (単独存続 17 行)
地 価 (2 0 1 5 年)	228.3 (16.7)	155.4 (22.5)	177.0 (16.2)
事業所数 2014 年)	364.3 (-2.1)	209.8 (-3.0)	217.5 (-3.7)
人 口 (2 0 1 5 年)	6,007.3 (2.3)	2,799.5 (4.6)	3,340.1 (5.4)
予想人口 (2040 年)	5,226.1 (-13.0)	2,480.6 (-11.1)	2,989.7 (-10.9)

- (注)1. 計数は店舗を有する市区町村毎の指標を加重合計して作成した。()内は伸び率で、地価・人口は10年間、事業所数は8年間、予想人口は2015→2040年の変化である。
2. 地価は国土交通省「都道府県別地価調査」(m²当り千円)、事業所数は総務省「経済センサス基礎調査」(可住地平方km当り所)、人口は同「国勢調査」(同、人)、予想人口は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(同、人)による。

- 事業所数は減少しているが、他行比では幾分優位
・・・改善効果もみられるか
- 人口の伸びは低く、将来的な人口減少率は相対的に大きい可能性も

金融機関は本拠地中心に活動

- 狭義の本拠地（府県）に拘り過ぎることは問題ながら、本拠地は重要
 - ……店舗配転等による営業地盤改善も重要
- 地方創生には、中堅・中小企業の開拓・取引深耕が必須
- 本拠地に於ける創生活動如何
- 逆に、本拠地以外の府県に於ける創生活動如何
- 関係重視型取引の弱点（新規先への貸出が困難）への対応

競合・合併等について

- **競合の強まりへの対応**

- ① 滋賀・南都……大都市進出

- ② 京都信金・京都中央信金……地元での対応

- ……金融機関の競合は顧客サイドでは望ましい

- **合併・経営統合への考え**

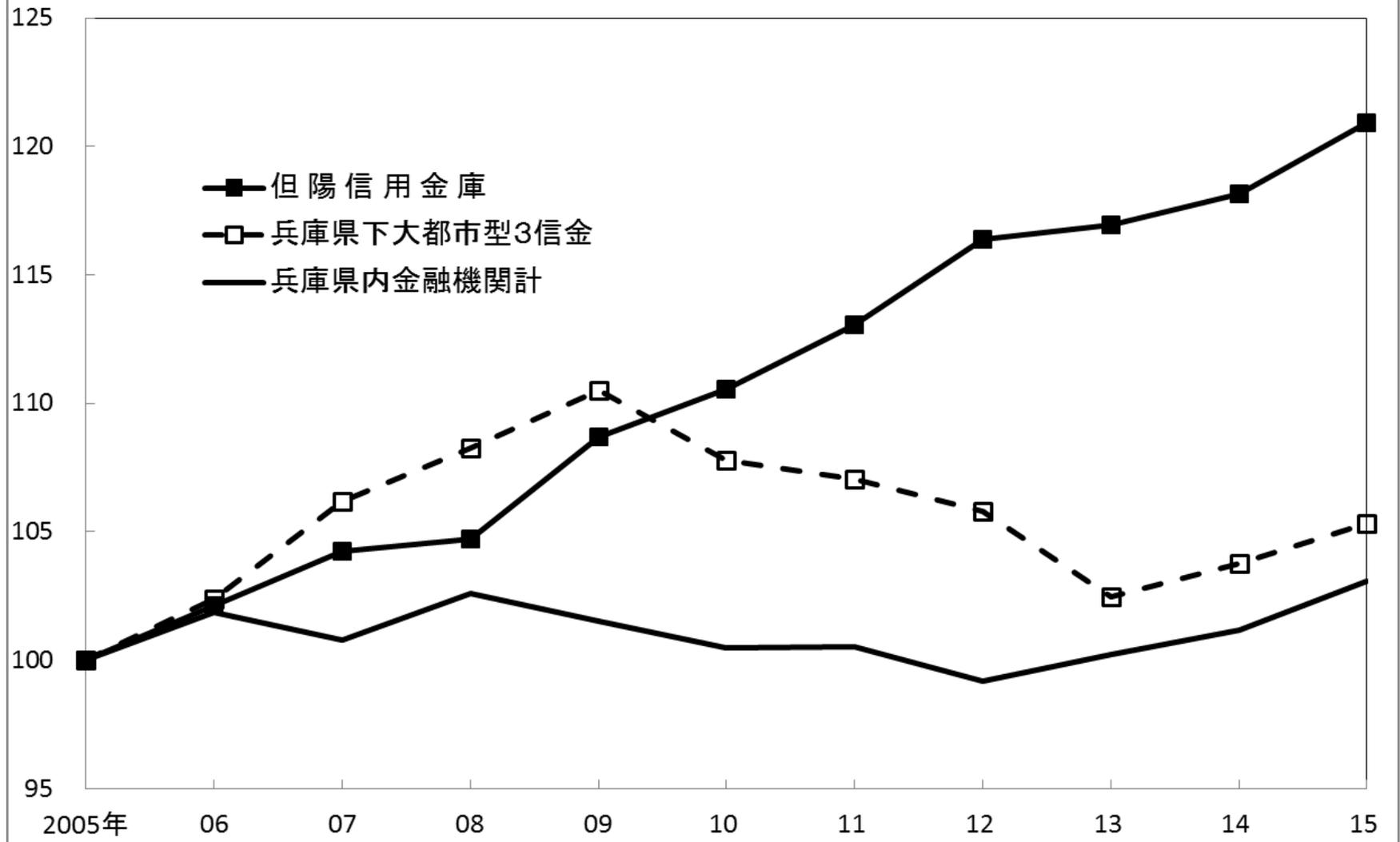
- ……必ずしも合併等が必要という訳ではない

- 近畿大阪、池田泉州、紀陽、関西アーバン、みなと、奈良は合併・経営統合等を実施

但陽信用金庫の「知的資産経営」支援

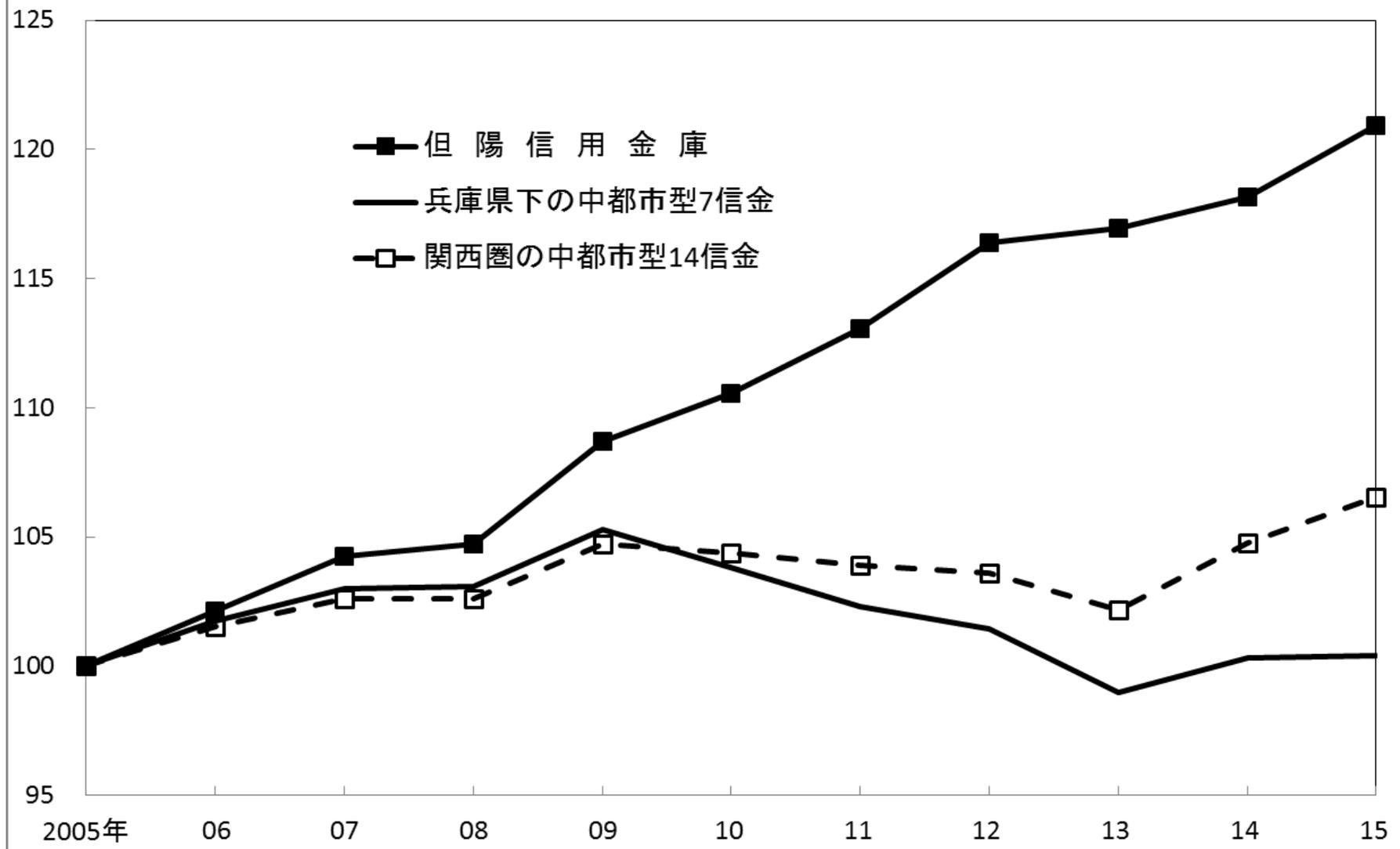
- 企業経営が人・技術・組織・関係機関等の組合せをベースとする点を重視
- 企業の本業・成長支援や取引深耕策として活用
- 金融機関側では企業をみる眼の育成に活用
- 貸出の伸長はその成果ともみられる

兵庫県下金融機関の貸出推移(2005年=100)



- **大都市型**(尼崎・神戸・日新)と比べても目立つ伸び
- 兵庫県内全体では、**近年やや上向いてはいる**

兵庫県下中都市型信用金庫の貸出推移(2005年=100)



- 貸出は順調に増加、「知的資産経営」支援の効果も
- 新規貸出先の増加？：新規開拓 vs. 取引深耕

但陽信金の営業地盤

(単位 千円、所、人、%)

	但陽信用金庫	兵庫県下所在 中都市型7信金	関西圏所在 中都市型14信金
地価 (05 → 15年) (m ² 当り千円)	63.3 (-12.3)	89.3 (-5.8)	74.2 (-9.7)
事業所数 (06 → 14年) (平方km当り)	85.6 (-5.7)	131.8 (-6.7)	96.8 (-4.1)
人口 (05 → 15年) (平方km当り)	2,094.1 (-1.3)	2,520.1 (-0.8)	2,078.4 (-1.3)
予想人口 (15 → 40年) (平方km当り)	1,729.5 (-17.4)	2,143.3 (-16.0)	1,761.6 (-15.7)

(注) 1. 兵庫県下所在中都市型7信金は、大都市型の3信金(尼崎・神戸・日新)を除く。関西圏所在中都市型14信金は、兵庫県下の7信金のほか、滋賀県下と奈良県下の各3信金、および京都北都信金である。

2. ()内は期間中の変化率である。

3. 地価は国土交通省「都道府県別地価調査」(m²当り)、事業所数は総務省「経済センサス基礎調査」(可住地平方km当り)、人口は同「国勢調査」(同)、予想人口は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(同)による。

- 近隣の同タイプ信金と比べ**地価の下落幅は大**
- 事業所数が相対的に少なめのなかで活躍

但陽信金の経営指標の水準および変化
(20014年度、2004 → 2014年度、単位 %・%ポイント)

	但陽信用金庫	兵庫県下所在 中都市型7信金	関西圏所在 中都市型14信金
コア業務純益率	0.170 (-0.169)	0.276 (-0.247)	0.292 (-0.212)
コア業務粗利益率	1.367 (-0.338)	1.321 (-0.472)	1.281 (-0.454)
経費率	1.197 (-0.168)	1.044 (-0.226)	0.989 (-0.243)
貸出金利	1.964 (-0.316)	1.952 (-0.470)	1.812 (-0.533)
預貸率	39.1 (-5.7)	45.3 (-8.7)	44.9 (-5.5)
貸出金利息対 経費比率(×100)	59.1 (-15.6)	77.5 (-16.4)	75.1 (-13.5)

(注) 1. 統計は金融図書コンサルタント社『全国信用金庫財務諸表』各年版による。()内は変化幅である。

2. コア業務純益率は、業務純益から債券売買等の損益(5勘定分)を除いた値を総資産で除している。本表で使用する経費は、経費+役員取引等費用のベースである。

- **利益率**は相対的に低い
- **貸出金利息による経費カバー率**も低い
- **預貸率**の低いことが影響

中期的対応（地方創生に加えて……）

- 兵庫県下は、**11信用金庫体制**（2002年2月～）
合併等も無し
- しかし、関西圏のなかでとくに営業地盤に恵まれているという訳でもない（中都市型）
……今後、**人口減の影響が強まる恐れも**
- **対応策如何**
- 関係重視型（取引深耕） vs. 新規開拓
- 協同組織であっても、**利益確保は重要**
- **合併**が必ずしも必要という訳ではないが、今後の1つの対応策となり得るか